



TITLE:

# 歐米に於ける日本學研究に就いて (下)

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

---

CITATION:

本庄, 榮治郎. 歐米に於ける日本學研究に就いて(下). 經濟論叢 1938, 46(3): 403-419

ISSUE DATE:

1938-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131072>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第三號 第四十六卷

昭和十三年三月一日發行

## 論叢

謂はゆる預金通貨の公式について……………

經濟學博士

小島昌太郎

共同體思想の國民的性格……………

經濟學博士

石川興二

社會的文化的變動の形式……………

文學博士

米田庄太郎

歐米に於ける日本學研究に就いて……………

經濟學博士

本庄榮治郎

## 時論

農地調整法案に就いて……………

經濟學博士

八木芳之助

## 研究

經濟擴張の理論……………

經濟學士

飯田藤次

貸借對照表分析論に關する若干の問題……………

經濟學士

岡部利良

## 說苑

戰時に於ける女子勞働……………

經濟學士

大塚一朗

勞働市場分析の一例……………

經濟學士

菊田太郎

大量觀察法に關する一著作……………

經濟學士

有田正三

## 附錄

雜報・外國雜誌論題

(禁轉載)

# 歐米に於ける日本學研究に就いて（下）

本庄 榮治郎

## 三

次に米國の日本學研究について見聞した所を記して見やう。

1. Columbia University (New York) コロンビア大學に於ける日本學研究は最も注意すべきもの一つである。行政的方面では University Committee on Japanese Studies があり、研究的方面では Conference on Far Eastern History of Civilization があつて、毎月一回會合を開いて研究討議をなし既に三年を経過してゐる。本學の Institute of Japanese Studies には角田講師が司書として永年在勤せられてゐるのみならず Dr. Hugh Borton 氏が講師として昨年より來任して講義を擔當されてゐる。同氏は和蘭ライデン大學のラーデル博士の下で研究せられ、先年百姓一揆の研究のため來朝された人である。圖書館は Eastern Asia Collection として支那その他を含んでをり、殊に支那の圖書が多いが、Japanese studies の室及階下の書庫には多くの日本書が蒐集されてをり約二萬部に達してゐる。辭書・百科辭典・文學・歴史等の書籍が最も多く、政治經濟に關する方面の圖書は、從來意識的には蒐集されて居ないとのことであるが、それでも相當多く集まつてゐる。この研究室が今の形をとるやうになつたのは一

九三一年以來のことであるが、勿論それ以前に於ても日本に關する圖書は角田氏の努力で集められてゐたものであり、同氏は一九一七年頃から來任されて居る由である。ポルトン博士は經濟史の方面に興味を持つて居られるから、將來此處の日本研究は經濟史の方面に發展することと思ふ。聽講學生は、昨年は日本語だけしか講義がなかつたので五六名に過ぎぬが、日本史の講義のあつた前年は十四五名に上つたといふ。この日本研究室の在る場所は大學入口の舊圖書館である。新圖書館が出来たので、舊圖書館の大閱覽室は式場などに利用され、その周圍の室が研究室に充てられたのである。一九三七年の講義のうち日本に關するものは次の如くである。

Lecturer Hugh Borton, Japanese,

History of Japanese Civilization.

Lecturer Ryusaku Tsunoda, Selected topics in the History of Japanese Civilization

Problems in Japanese History.

Visiting Lecturer Langdon Warner, History of Japanese Art.

二、Library of Congress (Washington) 圖書館のなかの Division of Orientalia があり、その中に更に日本部

がある。日本部の主任阪西女史 (Shio Sakanishi) が恰も歸朝中であつたので、東洋部長 Arthur W. Hummel 氏の下に助手として清朝史の編纂に従事せられてゐる百瀬文學士が館内を案内されたが、日本書の收藏約二萬五千部に及び、經濟史研究や社會經濟史學等の雜誌までも揃へてあつた。美術・文學・宗教に關するものが比較的多く官廳統計や地方史誌の類もあつた。外に日本に關する洋書數千部がある。書庫の中に机を置いて研究者に提供してレザブすることを許してゐる。

三、Yale University (New Haven) University Library の中の American Oriental Studies があり、日本に關する

圖書も集められてゐる。古くから朝河貫一氏が居られて日本史を講ぜられ、立派な書庫がある。蒐集圖書は歴史・文學・宗教に關するものが多く、その數は明かでないが一萬五千部ともいはれてゐる。然し政治經濟に關するものは割合に少い。特に注意すべきことは一八四八年以來 *Journal of the American Oriental Society* が年四回刊行されてゐることである。

#### 四 Harvard University (Cambridge)

(イ) Harvard Law School Library. Prof. Eldon R. James 氏が館長である。大きな圖書館で各國の法制資料の珍しいものが、而も完本が多く集められてゐる。ロシアの法制資料などは、恐らくロシア帝室のものであつたらしく他に類例のないものであらう。Oriental Collection のうち日本のものの概數は次の如くである。

雜誌	二〇種	一〇三〇冊 (合本)
報告書		一〇〇冊 (同)
圖書		一二〇〇冊
明治以前の圖書	九五種	八二〇冊
古文書	二四〇種	九四〇冊

日本に關する圖書も種々なものが集つてをり、官報なども第一號から揃つて居る。古い雜誌・刊行物でも完本が多いのに驚く。古文書も相當集つてをり、實に立派な圖書館である。日本部に下山重丸氏が居られた。

(ロ) Harvard-Yenching Institute (Yenching は燕京である) Prof. Serge Elisséeff 氏の管理の下にあつて、そのうちに Chinese-Japanese Library がある。藏書は支那十萬部、日本一萬部と稱せられてゐるが、日本圖書では文學・歴史方面のものが多く、政治經濟のものは少い。一九三六年から *Harvard Journal of Asiatic Studies* が年四回刊

行されてゐることは注意すべきである。

大學における講義には次のものがある。  
for undergraduates and graduates,

Elementary Japanese

History of Japanese Civilization before 1868 } prof. Elisseff

primary for graduates,

Intermediate Japanese }  
Reading and Research } prof. Elisseff

一九三七年一月下山氏が Instructor in Harvard-Yenching Institute となり、エッセフ氏外遊のため臨時に日本語を教へられたが、學生は十八名ばかりであつたといふ。

五、University of Chicago (Chicago) International House の館長 Dr. Price 氏の談によると、本學では近東研究が中心で、極東も寧ろ支那であり、圖書その他も支那に關するものが多く、日本書は少いとのことである。一九一九年以來 Oriental Institute が設けられ、そのビルディングの第一階には講義室、陳列室等があり、第二階には圖書室・教室その他があるが、前述の如く近東が主である。たゞ Prof. Mac Nair 氏は日本歴史を一五〇〇年前、一五〇〇年乃至一八五三年、一八五三年乃至一九三七年に分ち、それぞれ夏冬春の各學期に講義されてゐる。

六、North Western University (Evanston) Prof. Kenneth Colegrove 氏 (Political Science) が日本の政治制度研究者として知られてゐるが、同氏の研究室には大山郁夫氏が居られてその研究を助けてゐられるやうである。Colegrove 氏は盛んに日本圖書を蒐集せんとして居られるが、今の處では中央圖書館に多少日本の圖書が收藏されて

ゐるのみで、特別な日本研究室又は東洋研究室を持つてゐるわけではない。その蒐集されてゐる圖書も寧ろ憲法及憲法史が中心で、其他に多少政治經濟に關する書物がある程度である。然し兎に角政治關係のコレクションを持つてゐることは、他の大學の日本學研究が多くは文學歴史方面に重心を置いてゐるに比して特色があると思ふ。東大文學士で且東京商大出身の佐藤敏行氏が此處で研究(商業)されてゐる。本大學の Law School が Chicago に在つて、其處には Dean Wigmore 教授が居られ、日本法制史に關する圖書の蒐集が行はれてゐることは注意すべきである。同氏の下に日本人助手が居て徳川時代の法令の翻譯が進行中であつた。圖書の蒐集は University, Law School 共に到底 Harvard Law School には及ばない。

七、University of South California (Los Angeles) Department of Oriental Studies の次席として中澤健氏が居られ、十年程以前から日本に關する研究に従事せられ、日本文學美術等について講義し、兼て領事館囑託として日本事情の闡明に努力されて居る。尙、河合氏 (Kazuo Kawai) が日本地理について講義してをられる。圖書館の設備は完備してゐるが、特別な日本研究室があるわけではなく、中央圖書館の一室に東洋及日本關係の圖書を收藏してゐる程度で、その量も少い。尤も國際文化振興會から近く數百冊の圖書が寄贈される由であるが、そうならば特別な研究室も出来る様子である。

八、Pomona College (Claremont) 先年わが京都帝國大學大學院に在籍された Charles B. Fabs 氏が本學に Instructor in Oriental Affairs として在任せられ、日本研究殊に政治史方面の研究に従事されてゐる。特別な日本研究室があるわけではなく、また中央圖書館における日本書も少い。本大學へも國際文化振興會から圖書が寄

贈されるらしい。フアーズ氏の講義は日本語の外 The Government of Japan, The Development of Oriental Civilization 等である。昨年三月本學に於て南加州における極東研究者の會合が行はれたが、それには五校から十四名の關係者が出席して協議したといふことである。

九、Stanford University (Palo Alto) 日米外交史の Payson J. Treat 教授、日本史の市橋倭氏が居られ、日本のある雑誌にこの大學が日本研究につき米國各大學中最も完備した組織を持つてゐるとの記事があつたので、非常な期待を持つて參觀したのであつたが、中央圖書館及び History department の市橋教授室の圖書だけでは左程多くの日本書を收藏してゐるやうでもなく、また特別な施設があるやうにも考へられない。尤も市橋氏は歸朝中、トリート教授は旅行中で、それ等の人々に會ふ機會がなく、詳細なことは明かでないが、次の加州大學の方が遙に完備した組織を持つてゐると思ふ。

一〇、University of California (Berkeley) 本學は加州々立大學であるが、シカゴ以西第一を誇れるもので内容も整ひ財政も豊かな立派な大學である。Berkeley の町はこの大學で持つてゐるやうなもので、人口十萬足らずの處へ學生數は一萬近くもあり、日本人學生だけでも三百以上四百人近くも居るといふ。日本の圖書も非常に多く、文學・哲學・歴史殊に佛教關係のものは最も多く揃つてゐる。最近では政治經濟方面の圖書も盛んに蒐集されてゐる。東洋關係の圖書購入費年額五千弗とのことであるが、本年は支那書の入手困難なるため殆ど全額を日本關係書の購入に宛てるとの話もあつた。Oriental Language の Chairman として Ferdinand D. Lessing が居られ、日本人には彌永千利氏が Instructor in the History and Government of Japan として政治學部に勤務し、中村氏も Inst-



ructorとして研究室に居られる。尙日本語は Miss Florence Walne (Instructor) が教く、彌永氏は Political and Cultural History of Japan を講じてゐる。また久野氏 (Yoshi S. Kuno, Assistant Professor of Japanese, Emeritus) は圖書館内にその研究室を持つてゐる。尙昨年六月二十五日から八月八日まで本大學で Summer Seminar が開かれ極東に關する種々の講義があつた。即ち

Fine Arts, Langdon Warner of Hawaii Univ.

Philosophy, Ferdinand Lessing of the Univ. of California,

History, Arthur W. Hummel of the Library of Congress

Charles B. Fahn of Pomona college

Earl Swisher of the Univ. of Colorado

Literature, Jaroslav Krusek of the Oriental Institute of Prague

Florence Walne of the Univ. of California

かくて本學は近き將來に於て、アメリカの中部西部を通じての日本研究の中心地たる地位を獲得するのではな  
うかと思ふ。

一、University of Hawaii (Honolulu) 本學の東洋研究は一九二〇年に日本研究、一九二二年に支那研究の人が  
來任し、爾來次第に發展し一九三六年に Oriental Institute の名稱となり、圖書館の樓上に居を占め内容が著しく充  
實した。收藏圖書は約二萬五千部であるが、日本書も約一萬部はあろう。Institute of Pacific Relation からの圖書  
數千部の外に、昭和十年末から十二年九月までに國際文化振興會から約四千部の圖書が寄贈されてゐる。日本に關  
する講義は Denzel Carr (Instructor) Yukuo Uyehara (Instructor) 兩氏が日本語を、木村重治氏が日本史、ライデ

ン大學からの Visiting Prof たる Johannes Rabder 氏が日本文學史及日本佛教を講じてゐる。Institute の director は Gregg M. Sinclair 氏であり、昨年六月に Oriental Institute Journal なるペンフレットを發行した。ハワイ在留日本人の數は全島居住者の約三割八分に達してゐるが、本學の學生もその四割は日本人だといはれ、東洋科の一科に三百人ももの聴講者がある。この點から見ても本學の日本研究は注意すべきものであらう。

一二、以上は私の歴訪した箇所であるが、この外 University of Michigan (Ann Arbor) には Institute of Far Eastern Studies があり、永き歴史を持つてアメリカ中部の東洋研究の中心地たる地位を占めてゐるが、それはやはり支那研究の方が重きをなしてゐる。日本研究の方では Robert B. Hall (Associate Professor of Geography) Naomi Fukuda (Assistant in Japanese Languages) Joseph K. Yamagiwa (Lecturer in Japanese Languages) の諸氏がある。昨年六月二十八日から八月二十日に互つて極東研究の Summer Session が開かれたが、その題目中日本關係のものは次の如くである。

Prof. Ralph W. Hammett, Japanese Religious Architecture

Mr. James Arthur MacLean, Japanese Wood-block Prints and Printing

Dr. Shio Sakanishi, Japanese Poetry

Prof. Roderick McKenzie, Emigration and Population Movements in the Far East.

また Seattle の Washington 大學も東洋研究につき注意すべき所で、東洋部主任 H. H. Gowen 教授は立教大學講師として永く日本に居住した人で、同大學の東洋科には日本歴史、日本文化、日本文學等に關する講義がある。

以上の外に日本研究の學者として考へられてゐる二三の人を擧げるとPaul H. Clyde (Duke University, Durham) —最近の日本支那の政治的經濟的社會的發達を昨年の夏期講習で講義した) Robert K. Reischauer (Lecturer in the school of Public and International affairs and Instructor in the dept. of Oriental Languages and Literature, Princeton University, Princeton—Early Japanese History to A.D. 1167 一冊を刊行、昨年夏支那に赴き上海事變のため客死) Thomas F. Ennis (West Virginia University, Morgantown, Assistant Prof. of History—日本の發達と歐洲列強との關係を研究)等の人々がある。

#### 四

一、以上述べた所は直接に日本を研究の對象としたものに限つたが、この外廣く東洋に關する研究、例へば東洋美術史や極東外交史その他の中にも日本に關する研究を含んでゐることは當然である。又私の見た處、會つた人を中心としたため、それ以外の處及人を書き漏らした點も多いことと思ふ。従つて以上述べた以外に尙多くの日本研究に關係ある設備や學者のあることはいふ迄もない。

既に述べた如く從來は支那研究が寧ろ盛んであつて、日本研究は東洋研究の一部若くは支那研究に附隨して行はれた如き状態であつた。之は支那が早くから歐米に知られ互に交渉のあつたばかりでなく、歐米が支那に多くの利權を持つてゐた關係にもよることと思はれる。簡言すれば支那や印度が古くから國際舞臺に引き出されてゐたからであるが、日本は之に反して長く鎖國の中に經過し、國際場裡に打ち出たことが極めて新らしいばかりでなく、また歐米利權の目的とならなかつたためであるとも見られる。然るに近時特に滿洲事變以來日本の國力は

著しく擴充し、日本に對する關心が頗る深くなつたため、日本研究熱は急に高まり來つた。之れはとりも直さず日本の實力を認識した結果であつて、日本研究が國力の發展と關係あることを否むことは出来ない。

然しながら東洋研究若くは支那研究は古き歴史を有するだけ、日本研究は盛んとなつたとはいへ、猶設備に於ても業績に於ても之に比肩し得ない實狀であるから、今後は更に一層日本研究の發展充實を計つて、日本研究が東洋研究若くは支那研究の一部たる狀態から脱して自立獨往の地位を占むるに至ることが必要である。この意味に於ては歐洲における日本研究よりも、米國における日本研究が獨立性に富んでゐる。それは米國と支那との交渉が、歐洲と支那との交渉ほどの歴史と利害とを有せざる點、設備その他財力の點、并に研究者及學生の數等の點から見て之を肯定し得ると思ふ。

## 二、更に各國における日本學研究の實狀に對して考ふるに

(イ)獨逸。獨逸に於て日本學研究が盛んであることは、古くから獨逸人が日本に關心を有したことを見逃すことが出来ない。例へばかの Engelbert Kaempfer や Ph. Fr. von Siebold も獨逸人であり、維新後日本が獨逸からその文化をとり入れたことも大なる關係があることと考へられる。(黒田源次氏、最近獨逸に於ける日本學研究の傾向、三頁)

既に述べたる如く、伯林の日本學會及び各地大學に於て、盛んに日本學研究が行はれてゐるが、其間における聯絡若くは統制を缺いてゐるやうに思はれる。従つて各大學の研究にそれぞれ特徴を持たせて研究を統制することが必要であらう。例へば伯林では日本學一般、ハムブルグは經濟、ライプチヒは精神史、ボンは佛教の研究といふが如くにその特色を持たせて研究者を配置し、書籍その他の研究資料も融通し聯絡をつけたならば研究上大

なる便益が得られ、各地における人の不足、資料の缺乏を相當に補ひ得るのではないかと思ふ。前にも一言したが獨逸では爲替管理法の關係から、外國へ貨幣を支拂ふことが面倒であり、従つて新古の書籍を購入し能はざる状態にあるので、書籍其他の寄贈又は交換について十分日本から援助する必要があると思ふ。その上圖書費の缺乏を訴へてゐる状態であるから圖書費の寄附も識者の考慮を促したい事柄である。次に最近の獨逸では日本に對する關心から、日本に關する圖書の出版が非常に盛んであるが、その中には所謂一夜作りの如何はしき圖書やパンフレットもあり、十分に日本を研究せずして卒爾に書き下ろされたものもあるやうであるから、その誤を訂すためにも、十分に研究された結果が續々發表されることが必要であり、或は日本の適當なる書物を獨逸語に翻譯出版することも必要であらう。たゞこの場合に圖書の撰擇を誤らぬやうに注意しなければ、折角の目的が逆の結果を惹起する虞があると思ふ。更に人に關する問題も日本の側についていへば、先づ彼地の日本學者の研究を十分指導又は援助し得るだけの力ある適任者を毎年獨逸に送ることを考へなければならぬ。又各大學に奉職する助手の人々も語學ばかりでなく専門的知識ある人を適當の場所に配置することが必要であり、語學だけの考から専門の異なる方面で仕事せしむることは彼我共に得る所が少い。このためにはやはり専門の少壯研究者を獨逸に送つて獨逸人の研究を助ける傍ら、自らも研究するやうにしては如何かと思ふ。また獨逸の側についていへば第一に現在の日本學者の後繼者を作ることに力を注がなければならぬ。第二に研究者の地位を確保しその就職の途を考慮することが必要である。折角日本學を研究しても生活の途がないやうでは研究者の増加は望み得ないばかりでなく、遂には衰へるの外はない。其一方法としては此等の研究者を適當の期間、日本の高等學校專門學校等で獨逸

語の教師に招聘して日本で一層の日本學研究を積ましめ、後獨逸で日本學の教職に就かしむることとすれば、前述の後繼者の問題も自ら解決し一舉兩得ではないかと思ふ。この考は獨逸でも同様の考を持つて居られた人々があつた。

(ロ)其他の歐洲諸國。佛國に於ては前述の如く巴里に既に日本研究學會や日本會館が存するのであるから、之を礎石として研究設備を充實し、日本學研究機關たる立派なる成果を擧ぐるに至らんことと望んで已まない。例へば瑞西壽府における中國國際圖書館の如き独自の研究機關にまで發展せしむることが緊要であらう。

波蘭ワルソウにおける日本學研究は既に述べた如く盛んであるが、それは學問的な研究といふよりも寧ろ現實的の興味が大きなやうにも思はれる。

奧太利ウィーンの日本文化研究所は將來の發展に大なる期待が掛けられるのみならず、波蘭・チエコスロバキア其他を連絡して中歐における日本學研究の一中心機關としての役目を果すに至らんことを望まざるを得ない。和蘭は流石に日本と古くより通交のあつた關係上、ライデン大學の日本學研究室やヘーグの古文書館は立派なものであるが、僅かにラーデル博士があるのみであり、而も日本文化に關する講義も行はれてゐない狀態であるから、寧ろ人の問題が重要であり、幾多の研究者が出て業績を擧ぐるやう努力せなければならぬ。

英國に於て日本學研究の興らざる理由としては第一に費用支出の困難、第二に日本と英國との關係は相當古いものであり、日本の事情は一部の人には相當知られてをり、今更之を調査する必要なく、殊に英國人は實際的であるから歴史とか文獻とかによつて調べるよりも、日常の取引關係などで相當深く日本を知つてゐるため特別な

研究設備が起らぬのである。第三にかゝる文化施設が何か事のあるとき經濟的利害以上に強力となれば結構であるが之は望み難く、多くは經濟的利害の方が強く働いたため文化施設などに多く注意を拂はぬためであると説明された人もある。成程その國民性から見てそういう理由があるかも知れぬが、文化的施設は文化的施設として役立つべきものであり、根本的に日本を知るためには必要なものである。要するに物心兩方面から日本を理解するためには、經濟的利害關係のみならずこの文化施設が無くてはならぬものではないかと思ふ。

(一)米國。米國における東洋研究もやはり支那研究が盛んであつて、日本研究はそれに及ばない。Notes on Far Eastern Studies in America にあらはれてゐる所を見ても、大部分が支那研究であつて、日本研究については誠に貧弱な感を與へる。之は或は支那研究の方が力めて報告されて、日本研究の方が十分報告されなかつたことも考へられるが……。而してその日本研究もやはり文學・美術・語學の方が主であつて政治經濟に關する方面はあまり進んでゐない。然し東部に於ても西部に於ても最近はこの方面の研究に力を入れやうとする傾向のあることは喜ばしう。殊に Borton, Colegrove, Fahs 諸氏がこの方面の研究者であり、將來大に活動されることを期待してゐる。研究設備も東部に於ては相當整つてゐるが、中部西部ではまだ不十分の感がある。然し加洲大學の如き設備も整ひ財力も豊に、日本人學生も三四百人を擁して居るやうな大學では近き將來に於て目覺ましき發達を遂げることと思はれる。また昨年九月十六日乃至十八日に Cambridge に於て The Committee on Far Eastern Studies of the American Council of Learned Societies 主催の下に東洋研究者の會合が行はれたことや、前述せる同年三月末の Pomona College に於ける極東研究者の會合の如き、何れも注意すべき出來事であらう。猶獨逸に

おける如き研究者の就職問題は目下存しないことも注意を要する。

米國に於ける東洋研究殊に極東に關する研究は最近十年間に非常な發達を遂げたが、それは勿論東洋を理會することの必要に刺戟されたのは言ふ迄もないが、研究に關する機關が出来たことも重大なる原因と認められる。その機關といふのは例へば

The American Council of the Institute of Pacific Relations

The Harvard-Yenching Institute

The Rockefeller Foundation

The Carnegie Corporation

The Library of Congress

The Committees on Far Eastern Studies of the American Council of Learned Societies

等であり、又各地に Japan Society があつて會合其他のことをやつてゐることも、たとひそれは社交的部分が多いにしても日本研究と密接な關係を持つてゐると思ふ。

要するにその規模の大にして財力の豊かなる、又政治經濟方面に注意を拂へる點に於て、米國の日本研究は閑却することを得ざるものであり、將來の發展は期して待つべきものありと信ずる。

三、最後に歐米の日本學研究に對する日本に於ける關係方面の事業その他を一言しやう。先づ第一は外務省の文化事業部(第三課)である。こゝでは研究講座・學者藝術家其他の交換・學生その他の交換・學者その他に對する研究援助・圖書其他の交換出版助成・講演會・展覽會等のことを行つてゐるが、大體に於て先づ第一には寧ろ歐



米列強以外の國を目標として、それ等の國へ日本文化を紹介する方針で事業を行つてゐる。従つて歐米列強に對する事業は謂はゞ第二次的受動的で、積極的にはそれ以外の國へ事業を進めてゐるものゝやうである。之は文化研究を受け入れ易き方面から手を着けることであつて、確かに一つの見方であると思ふ。然し現に研究設備があり、研究者のある歐米各國に對しても、その事業の援助發達について積極的な活動を望まざるを得ない。

次に國際文化振興會であるが、その事業は誠に多岐に亙つてゐるが、その主なるものは講師の海外派遣・日本文化研究に對する獎勵補助・講演會・展覽會・實演會等の開催、圖書資料の出版・交換・寄贈等である。圖書編纂では目下英文日本文化叢書其他が編纂されてをり、既に出版されたものに *A short Bibliography on Japan* や *A Guide to Japanese Studies* (歴史・佛教・神道・美術・文學の概要及參考書を示せるもの) 其他がある。圖書寄贈の行はれてゐることは既に一言した所であるが、之を熱望してゐる獨逸その他歐洲諸國にも米國同様大量的寄贈が望ましい。猶季刊雜誌や毎年の事業報告書があるから詳しくはそれを参照されたい。

## 五

日本學即ち *Japanology* はその本來の意味に於ては日本古典學とも解される。或は萬葉の研究とか日本固有の藝術・宗教・文學の研究とかゞその對象をなすものの如くであるが、必ずしもかゝる固有の範圍に限局さるゝ必要はなく、廣く日本文化の研究がこの中に含まれて差支なきものと思ふ。即ち今の動きつゝある日本を正當に理會するために、日本文化を廣く深くその淵源に溯つて研究して行くことに外ならぬ。實際に於て研究範圍は時代と共に擴張し、歴史の方面に於ても今や維新史・明治史等から最近の發達に迄及んでゐる。但それ等の研究が單

に歐文書のみではなく、嚴密には日本語又は日本書を通じても行はるべきであり、歐米に於てかゝる研究が可能であるだけの設備と人を持つことが必要であると考へられる。

日本學の研究は學問的施設としての研究であつて、觀光的・趣味的な日本研究を指すものではない。例へば旅行の案内とか、映畫の觀賞とか、茶湯・生花の實演とか、或は刀劍の蒐集とかいふ類も、やはり日本研究の一端であり、日本文化の紹介であらう。然しそれは、茲にいふ日本學研究そのものではない。此等の觀光的趣味的な日本研究は一時的の好奇心をそそり興味を惹き起さしむるには好き方法であらうけれども、根本的に文獻を通じて日本を理會する日本學研究の場合とは決して同一視することを得ない。従つて之を取扱ふ團體も觀光局や社交團體としての文化協會に於て行はるべきものであり、學術的研究團體の本來の使命ではない。私はかゝる一時的な刺激を與へるよりも、もつと根本的に日本を理會せしむることが必要であり、それがためには所謂日本學の研究に重點を置かなければならぬと思ふ。

日本學の研究に對する援助は既に述べた如く各方面に於て行はれてゐるが、設備と研究者との兩方面に對して我國に於て更に一層の援助をなさなければならぬ。財力もあり設備もある國に對する援助よりも、かゝる便益なき國に對する援助が先づ考へられなければならぬと思ふ。猶外國における研究者相互間の連絡も必要であり、設備の融通も考へらるべきであらう。殊にある一國における日本學研究者間の和協と協力とが強く要望さるべきであり、人の和を缺いでは事業は進むものではないと思ふ。

此等の事業について我國の官廳としては外務省と文部省、團體としては國際文化振興會と各種文化協會とが直

接間接に之に關係するものであるが、それ等の行へる事業が果して所謂日本學の研究に重點を置いてゐるか、或は觀光的趣味的施設に満足してゐるかは、更によく再検討すべき問題であるのみならず、その本來の使命に基いて、日本學研究のために努力をなすべき團體の一層の活動を希望せざるを得ない。

國際親善といふことも日本文化の研究を通じての國際親善でなければならぬ。日本の文化を歴史的に若くは種々の方面から研究した人はよく日本を理會してをり、今回の日支事變などに對しても日本の立場を正當に理會してゐる。私は「國際親善は文化研究から」との考を持つてゐるが、その文化研究は日本を根本的に理解し得る確乎たる信念を植付けるべき日本學の研究でなくてはならぬ。單なる日本文化の紹介は一時の好奇心を満足せしむるのみであり、空漠な親善では何の役にも立たない。朝野共に日本學の研究に一層の努力が望ましいと思ふ。

#### 參考文獻

- Solf, Aufzeichnung über die Aufgaben des Japaninstituts in Berlin, 1932.  
Kühnmei, Die Gegenwartsaufgaben der Japanologie, Berlin, 1937, Sonderdruck aus "Nippon" 3 Jahrgang, Heft 1.  
Der Japanische Botschafter in Bonn, 1937.  
Takaki, A Survey of Japanese Studies in the Universities and Colleges of the United States, Honolulu, 1935.  
Notes on Far Eastern Studies in America, 1937, by the American Council of Learned Societies, Washington.  
岩村成允、歐米諸國に於ける東洋學術研究の現狀 昭和八年十月 外務省文化事業部刊行  
黒田源次、最近獨逸に於ける日本學研究の傾向 昭和九年八月 日獨文化協會刊行  
井上 勇、各國に於ける日本研究の現況 昭和十年四月 外交時報第七四卷二號  
中屋健次、最近米國に於ける日本研究 昭和十二年一月 歴史創刊號